

# トランプ政権のアメリカと中東情勢

千葉大学法政経済学部教授  
酒井啓子

- \*テロ拡散の新しい形か
- \*トランプ政権の対中東政策とは何か
- \*反イスラム志向に傾く背景は何か
- \*イスラエル・パレスチナ問題へも波及
- \*エルサレムへの大使館移設はあるか
- \*トランプ政権に接近するサウジ
- \*サウジが国防費を急増させる理由
- \*イスラム国最後の拠点への奪回作戦
- \*反イスラム国作戦はなぜ好転したか
- \*トルコ・エルドアン大統領の思惑



**柴生田** それでは開会いたします。（拍手）

酒井先生には1年に1回程度来ていただいておりますが、今日はトランプ政権誕生後の中東情勢についてお話をいただくということになっております。日本のメディアも移り気なものですから、中東問題について情報が少し不足していると思いますが、イスラエルの問題、ロシアの問題も含めて大きく今揺れ動いているのではないかという気もいたします。そういうことで今日はおなじみの酒井先生のほうから今後の見通し、現状についてじっくりお話を伺えるかと思えます。それでは酒井先生、よろしくお願いたします。（拍手）

**酒井** ただいまご紹介にあずかりました酒井でございます。本日は「トランプ政権のアメリカと中東情勢」というテーマでお話をさせていただきますたいと思います。

先ほど事務局の方とお話しさせていただいて気がついたのですが、1年に1回はこちらでお話をさせていただいています。1年前はシンポジウムでしたので単独のテーマでお話をしておりますが、その前はと振り返ると、ちょうどイスラム国によって、後藤さん、湯川さんのお2人が拉致された時期でした。日本国内全体がイスラム国とは何か、イスラム国の掲げる思想、暴力活動とはいったい何なのかという話題でもちきりだった時期にお話をさせていただきました。そのときも予定していたわけではございませんけれども、そのような暴力的な事件が起こってしまっただけです。